

## 令和6年度 第3回苫小牧市総合戦略推進会議 議事録要旨

- 【日 時】 令和7年1月24日（金）15:00～16:40
- 【場 所】 苫小牧市役所9階 議会大会議室
- 【出席者】 奥村会長、菊田副会長、荒川委員、五十嵐委員、片石委員、工藤委員  
五嶋委員、佐藤委員、柴田委員、中村委員、長山委員、成田委員
- 【事務局】 苫小牧市 総合政策部 町田部長、  
政策推進室 茶谷室長、  
政策推進課 大宮課長、早出課長補佐、林川主任主事

---

### 議 事 次 第

---

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 議題
  - (1) パブリックコメントの結果について
  - (2) 第3期人口ビジョン及び総合戦略(素案)に対する意見と対応方針について
  - (3) 第3期人口ビジョン及び総合戦略(案)について
  - (4) 今後のスケジュールについて
  - (5) 意見交換
- 4 その他
- 5 閉会

### 3 議題

#### (5) 意見交換 (質疑を含む)

##### <F 委員>

こども家庭庁と話している中で、北海道の中でもネウボラを通して「こどもまんなか」について発信いただきたいと話があった。教育の目線が総合戦略では薄いと気になった。パブコメにも不登校とのワードあったが、教育については、総合戦略でどんな位置づけなのか気になった。

また、「こどもまんなか」について、こども家庭庁としても子どもの人権が大事だが、まだ全国に理解されていないことに子育て支援の課題があるのではと感じている。苫小牧市も子どもの意見を聞く取組があると聞いたので、そのあたりもピックアップしていけるといいのではないかと感じた。

##### <A 委員>

出生数について、去年は800人を切っている。このスピードで減っていくと認定こども園の維持が厳しくなるのではないかと。また、将来的に継続できない産業や業種が出てくるのではないかと。

人口の維持については、企業誘致や移住に力を入れて、人口減少をカバーできるような人の流入を図っていかなければ、将来展望に掲げた目標すら危うくなるという懸念がある。

また、定住する際に重要なのが教育問題。苫小牧に市外から来てもらえるような高校や大学など、教育施設の設立が必要だと思う。

もう一つは医療。病院に行くのに足が確保できない。バスの便も減っていて、タクシーも予約ができない。介護タクシーも少ない。歳を取ると免許を返納しろと言われるが、急な病気の際に、老老介護の場合には病院すら厳しいという状況。総合病院に通うための年寄りの足として、バス路線も考えていただければと思う。

企業誘致がチャンスなので、実行力のあるような策を打っていただければ。

##### <B 委員>

金澤市長から人口20万人との発言があったが、この会議でこれまで進めてきた将来展望人口と乖離が見られた。ゴールによっては実行する施策も修正が必要になると思う。

人口を減らさない、あるいは増やしていく場合、外から連れてくる、連れてきた人を定住させる、そして、出生率を上げる。外から連れてくる際、国内だけではなく、海外の労働力も視野に入れると力になると思う。地球全体では空前の80億という人口増加の中にあり、国外から労働力を確保することができるようになっていくと思う。

また、企業誘致をした上で人材はどうするのかという点。苫小牧の若者にある程度のスキルが蓄えられていなければ尻すぼみになってしまう。誘致してきた企業に最適な人材を確保するためにも教育機関を一つ増やしてもいいのではないかと思う。

最後に、移住してきた方が家を持とうと思ったときに補助や支援があると、より一層定住につながると思う。

#### <C委員>

KPIについて、決して簡単ではない設定だと思う。KPIに対しては、市役所だけではなく、地元の企業や市民も認識を高めて、市民全体で盛り上げていくという動きができると、目標に対してより結果が近づくのではと感じた。

地元就職の促進について、奨学金の返還支援制度は素敵な制度だと思う。また、魅力づくりについて、主な事業としてラインナップいただいているが、一番難しいのは、ここにはないものをどうつくるかということ。地元を挙げて、例えばアニメを推すのか、地産地消で何か売するのか、またはインバウンドに力量を置くのか。様々な分野があるかと思うが、他の市町村と差別化するというのが引き続き大事なポイントだと思う。

#### <D委員>

出生数が相当なスピードで減ってきていること、若年層の転出が超過していること、特に女性の若年層の転出が最近顕著になっていることが、結果的には自然減にもつながり、社会減にもつながっている。若年層の呼び戻しや、転入を増やすことが一番重要な施策だと思う。特に若年層が転出する理由は雇用環境で、就業が目的で首都圏に行ってしまう。特に、最近では女性の高学歴化が顕著であり、地元で就職環境が充実していないため都市圏に行かざるを得ない。

十勝総合振興局が昨年1年間で若年層の転入が増加となった唯一の振興局だと報道されていたが、その理由が創業関係であった。苫小牧市で掲げている企業の呼び込み、創業支援、新事業支援、これらに力を入れていくことが大切だと感じた。

自然増減というのは地方自治体単独では解決することが非常に難しい課題だと思う。産業集積をさらに進めると、仮に人口が減ったとしても、若年層が増えれば生産性は上がり、経済力も増すことで、地域は活性化すると思う。

#### <E委員>

交流人口、関係人口について、35ページのKPI、観光入込宿泊客数はもっと増やしてもいいのではと思う。実際に12月は閑散期だったが、1月からラピダスやインバウンドの効果もあると思うが、札幌から流れてきているのもあり、1、2月が好調で宿泊料金がすごく高い。

次に、36ページ。スポーツ合宿補助事業は効果があり、合宿のリピートが増えている。

大会に関しては、全国クラスの大会を誘致できる制度が欲しいと思っていた。具体的には市の公共施設の減免。例えば、アイスホッケー施設の利用料を無料にできればベストで、これだけでも大会運営費の3分の1ぐらいを捻出できる。アイスホッケーに限らずあらゆる競技は、競技施設の利用料が負担となっている。今後の課題にしていれば。

#### <F委員>

基本目標4のみにSDGsの教育カードが入っているが、全ての分野において教育という目線は必要だと思う。

裕福層との二極化が経済を動かす原動力になっているので、人の流れをつくる際も裕福層の動きを意識した内容が組み込まれているといいのではと思う。

また、教育に熱心な方は体験教育を重視しているようなので、親子で体験できる教育ツアーもあるといいのではと感じた。

最後に、ふるさと納税について、超高額納税者からとにかくそのまちを応援したいので、リターンのない納税のメニューを作ってほしいということ聞いたことがある。そういうところも拾っていけるといいのではと感じた。

#### <G委員>

出生数と婚姻数は比例しているのか聞きたい。結婚できるような環境をつくることだが、隣の自治体とも協力し合いながらやっていくべきだと思う。人口の取り合いをしても同じことなので、自前でいかに人口を維持していくかということを考えていただきたい。

アンケートで、18歳以降が進学を理由に苫小牧を出ていくケースが多いとあるが、専門学校や短期大学などを駅前のビルに集中させ、そこを卒業した方が苫小牧で就職できるような状況が望ましいと思う。

また、若い人は年収ベースの高い札幌に行っている状況。苫小牧の中小企業においても、札幌の中小企業と遜色のないぐらいの年収ベースを持っていけるように市も支援していただくと、苫小牧の企業に就職しようという気持ちになると思う。

教育については、保育園から中学校までの給食の無償化というの、相当有力な方法だと思う。

苫小牧の企業でワーク・ライフ・バランスが整っている企業は大企業ぐらいしかないのではと思う。中小企業においては、一人でも欠けると誰も補填できない。子どもの発熱など、何かあったら、すぐ保育所等に行ける体制を企業側が持たなければいけない。企業に対しての支援も必要だと思うので、その辺も考えていくといいのではと思う。

#### <H委員>

昨年は出生数が700人台。婚姻率との関係も気になるが、家庭の中で子どもが生まれるというのは、その年に婚姻した方だけではないので、実際の世帯数や転入者数が増えて

いくことに期待を寄せている。子ども関係の仕事にいますが、社会の動きとつながっていて、子どもが生まれてから就学までの6年間、無事にその先の人生を豊かに送れるようにという思いで私たちは保育をしているが、その保育も経営が危ぶまれているのが実態。

東胆振にお住まいの方々が苫小牧市に仕事に来ているケースも多々ある。苫小牧市は、あくまでも住民票があるところでの保育園の受入れとなる。保育園運営という点では、柔軟な対応を取り入れていくことも可能性として考えていってもいいのではと思う。

#### <J委員>

8ページ、たくさんの外国の方が苫小牧に来てくれていることを改めて認識した。どこの国の人たちとも親しく、楽しく過ごせるような苫小牧のまちをつくっていくことが大事だと思う。

人口は11年連続で減少している。市民や市役所の方たちもどうすれば人口が増えるか、苫小牧のまちを気に入ってもらえるかと頑張っているが、どうしてもできない部分はある。

金澤市長は子育て支援の充実をトップセールスに上げていた。小中学校の給食費6か月無償については、すごくいいと思う。

また、特に西側に住んでいる高齢者の方は買物に行けずに困っている。車で買物に行っているが、車がなければ行くことができない。一番困るのは病院。苫小牧で1か所の病院だけは、送り迎え無料というところがある。そういうところを増やしてもらえば。

私も苫小牧に移ってきて、いいまちに引っ越して来たなと思っている。苫小牧に来てよかったなとすごく思う。

#### <K委員>

脱炭素先行地域に苫小牧市が選定されていることは、脱炭素社会をリードしていけるポテンシャルがあると国全体が認めているということだと思うので、様々な形でチャレンジし、一般の人でもわかるように見える化することが重要だと思う。

人口問題で必要なのは、住みやすいまちをつくっていくこと。仕事もあり、高齢者も暮らしやすく、子育てもしやすいまちを地産地消でつくっていく。交通やエネルギーなどの様々な生活のインフラが整っていて、安全であることが必要だと思う。

また、例えば「A1といえば苫小牧」というように起爆剤となるものが必要だと思う。千歳を見ているとラピダスの進出により、人も入ってきていて、まちの状況も変わりつつある。ソフトバンクが苫小牧にデータセンターをつくるということであれば、官民、教育も連携して、A1の拠点をつくっていく。これを起爆剤として、例えばA1に特化した大学をつくることができると、将来性のあるまちにつながっていくように感じた。

#### <L 委員>

今後は、AIと共に外国人の有効活用が、大きな人口ビジョンの柱になると思う。

特に苫小牧では、外国人人口が一般的に社会問題となる1%に限りなく近づき、今まさに超えようとしている。

その意味でも外国人対策を視野に入れた人口ビジョン作成の必要性を強く感じる。

また、この会議だけではまとまらない多様性、多様化が要求されている内容だと思う。例えば、市でも他の委員会が多々あるので、座長会議のようなものがあるとよい。そこに参加して、皆さんにフィードバックできると、このビジョンはより一層充実したものになると思う。

このメンバーは年に2回か3回しか集まれないので、例えばメンバー会議室のようなものをネットにつくり、みんなで意見を出すことができる環境も必要だと感じた。

最後に、OODAループについて、我々の立ち位置はDなのかOなのか、立ち位置にふさわしい形で皆さんの特質をいかした意見が集約できる環境ができればと感じた。

#### <政策推進室長>

最大の課題となっている人口減少対策や、本市が向かうべき方向性など、様々な角度から貴重な知見を得ることができた。また、会長からも話があったが、総合戦略は様々な部署が絡んでおり、非常に難しい課題を皆さんにご議論いただき、大変感謝している。

委員各位から大変多くのご意見をいただき、この第3期苫小牧市人口ビジョン総合戦略をここまで形にすることができた。

本日いただいた意見は、担当課と改めて協議をし、反映できるところは反映し、その他の意見については、今後の取組の中で、新しい事業を構築するのか、工夫をして取組自体を充実させていくのか、そういった形で反映していきたい。

人口減少は加速度的に進んでおり、子ども、教育、企業誘致、それから高齢者の移動の問題、多文化共生等々、やらなければならない課題がたくさんあると認識している。これらを長期的な視点で取り組んでいく必要があると改めて感じた。今後ともご助言を賜ることがあるかと思うが、引き続きよろしくお願ひしたい。